

とうこつえんいたんこつせつ 橈骨遠位端骨折



整形外科医師

ひきだ たかまさ
匹田 貴雅

山香病院だより vol.57

皆さんこんにちは。杵築市立山香病院の匹田です。今回は橈骨(とうこつ)遠位端骨折についてお話したいと思います。

まず、橈骨について説明します。肘から手首にかけて骨が二つあるのですが、そのうち親指側に付いている骨のことをいいます。これが、遠位端つまり、その橈骨が手首の近くで折れてしまう骨折のことをいいます。

橈骨遠位端骨折は高齢者、特に閉経後の中年以降の女性に多い骨折になります。高齢者が多い日本では、増加傾向にあります。

背骨の圧迫骨折や、大腿骨の足の付け根で折れてしまう大腿骨骨折、上腕骨近位端骨折と同様に、骨がもろくなつ

てしまう骨粗鬆症のある人多発しています。60歳時におけるその後の生涯骨折発生率は、圧迫骨折が18・4%で、橈骨遠位端骨折は女性においては14・5%(男性は1・7%)もあります。その次に大腿骨頸部骨折が8・5%と続きます。橈骨遠位端骨折は2番目に多く、注意が必要です。

若年者ではスポーツや交通事故などの高エネルギー外傷によつて生じることが多いのですが、高齢者の場合には軽微な外力による脆弱性骨折として発生します。

骨折をしない、予防するためにはどうすればいいのか? もちろん骨がもろくないことも必要ですが、同時に「下肢バランス運動能力」が必要なことも明らかになってきていま

す。つまづかないこと、こけてしまわない、バランスの取れる強い足腰も必要なのです。しかし、注意していても転倒し、橈骨遠位端骨折が起きてしまうことがあります。

その際の治療としては、ギプスなどの保存療法と手術などの観血的治療があります。ギプスで治せるような骨折であれば保存療法の適応となりますが、解剖学的な整復位の保持が困難なとき、その他の困難が予想されるときには手術が必要になります。

転倒後に、手首が痛い・腫れているときなどは、橈骨遠位端骨折の可能性があるので是非整形外科を受診してください。

